

## 中干し水田で発見したアライグマと淡水ガメの足跡

小賀野大一

290-0151 千葉県市原市瀬又962-40 千葉県野生生物研究会

Footprints of a freshwater turtle and a raccoon in paddy fields.

By Daiichi OGANO

*Chiba Wildlife Research Society, 962-40 Semata, Ichihara-shi, Chiba 209-0151, Japan.*

千葉県の水田では稲が大きく成長する6月頃になると、中干しが行われ水が一時的になくなります。中干しは、無駄な分蘖<sup>ぶんげつ</sup>を抑えて稲を倒れにくくし品質の良い米づくりをするための重要な作業といわれています。この中干し期間の水田は特に動物の足跡が残りやすく、哺乳類、鳥類、カメ類など多くの生物種の生息を比較的容易に確認することができます。

アライグマとニホンイシガメはいずれの種も水田や溜池などの水辺とその周辺の里地環境をよく利用するため(小賀野他, 2017など)、侵入したアライグマの増加によるニホンイシガメの捕食被害が各地で生じています(小賀野他, 2015)。今回、2018年6月27日に生物調査で訪れた千葉県夷隅郡御宿町久保の水田において、アライグマとカメとの出会いが予想される足跡が残っていたので報告します。

図1に見られる足跡の様子から、もし同時刻に付いた足跡であると仮定すると、下部から歩いてきたカメと上部から歩いてきたアライグマが出会い、その後に両種は右手の畦方向に移動していることが想像されます。また、よく見るとそこには出会いを見守るようにニホンイタチと思われる足跡も残っていて、現場の状況はより複雑なものであったのかもしれませんが、カメがアライグマからうまく逃げ切ることができたのか、或いはその場で捕まってしまったかどうかはわかりませんし、それぞれの足跡が全く違う時間帯に付いたものなのかもしれません。



図1. アライグマとカメの足跡。カメは爪の位置から判断して、図の下部から右斜め上方向に移動している。一方、アライグマは指の向きから判断して図の上部から下方に向かって移動し、両者の足跡が出会う付近で右手の畦側に共に消えているように思える。また、その近辺左手の図中央部付近には、ニホンイタチと思われる足跡も確認できる。

この御宿町周辺を含めた外房地域の水田には、ニホンイシガメの他にクサガメも生息しています。今回のカメの足跡がどちらの種であるのかは特定することはできませんが、少なくともこれらの淡水ガメにとって水底の泥中に身を隠すことが困難な中干し期の水田は、とても危険な場所といえそうです。

#### 引用文献

小賀野大一・田中一行・八木幸市. 2017. 淡水性カメ類捕獲用罟にかかったアライグマとアライグマ捕獲用罟にかかったニホンイシガメの記録. 爬虫両棲類学会報2017(2): 190-191.

小賀野大一・尾崎真澄・小菅康弘・近藤めぐみ・西堀智子・松本健二・長谷川雅美. 2015. 千葉県ニホンイシガメ保護対策協議会の設立とその活動. 爬虫両棲類学会報2015(2):174-183.